

トビウオ通信 (9月号)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/ (TEL 0855-22-1720)

《平成 13 年夏の漁況を振り返って》

ばいかご漁業

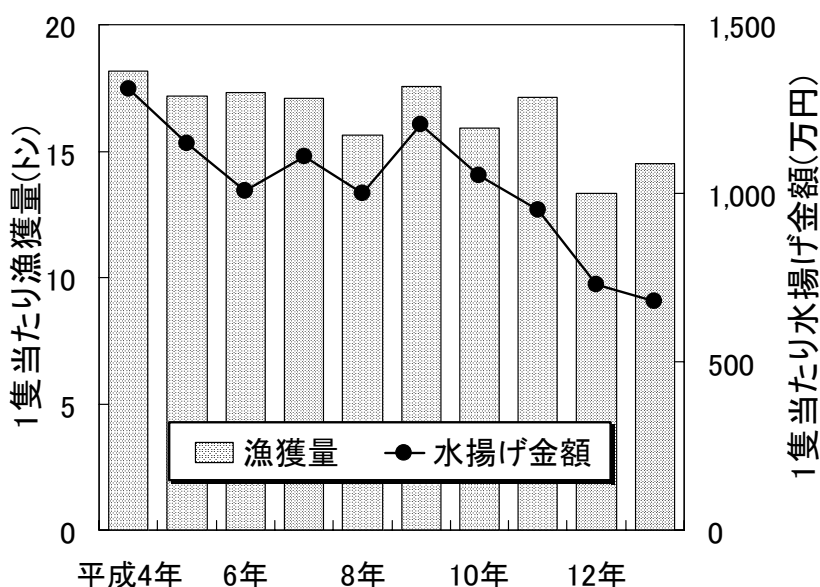


図1 石見部および出雲部ばいかご漁業におけるエッチュウバイの1隻当たり漁獲量と水揚金額の推移。

石見部および出雲部のばいかご漁業は、小型底びき網漁業（第1種）の休漁期の6月から8月にかけて行われており、現在7隻が操業しています。今漁期の石見部（6隻）および出雲部（1隻）のばいかご漁業における総漁獲量は124トン（前年比98%）、総水揚金額は7,292万円（前年比97%）でした。総航海数は227回で前年並みでしたが、量・金額とも前年をわずかに下回りました。また、魚価は依然として低迷しており、エッチュウバイの1kg当たりの平均価格は470円で、平成4年以降初めて500円台を割り込み、最低であった前年（544円）をさらに下回りました。

図1に1隻当たりのエッチュウバイの漁獲量と水揚金額の推移を示しました。1隻当たりの漁獲量は14.5トン（前年比109%）、水揚金額は680万円（前年比94%）でした。前漁期初めて漁獲量が15トン台を割り込み資源状態の悪化が懸念されましたが、今漁期はわずかながらも増加しました。しかし、依然15トン台を割り込んでおります。また水揚金額は魚価低迷の影響を受け、平成4年以降最低となりました。特に銘柄「特大」、「大」で平均価格が低落し、1kg当たりの価格が300円を割り込むといった状況も見られました。

一方、エビ類（モロトゲアカエビ、イバラモエビ）の漁獲量は9.4トン、水揚金額は1,828万円で量・金額とも平成4年以降最高となりました。図2にエビ類1隻当たりの水揚金額の推移を示しました。近年、漁獲量の増加とともに水揚金額も急増し、1隻当たりの漁獲量は1.3トン、水揚金額は261万円で、平成4年の量で7.3倍、金額で9.3倍となりました。近年、量・金額ともエビ類の占める割合が増加し、重要度がますます高まってきております。しかし、数年前に比べ、魚種組成の変化（イバラモエビ【オニエビ・白エビ】の増加）また漁獲物の小型化が目立ってきていることから、今後のエビ類の資源動向に注意していく必要があります。

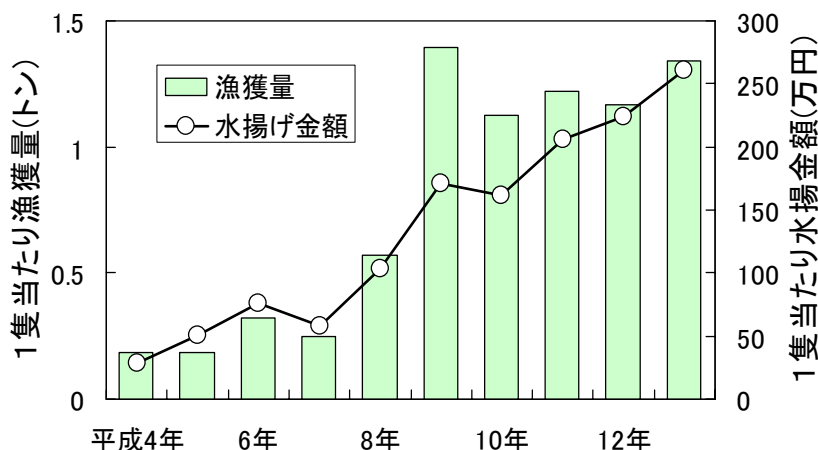


図2 石見部および出雲部ばいかご漁業におけるエビ類の1隻当たり水揚金額の推移。

シイラ漬（まき網）漁業

シイラは釣・縄、刺網、まき網、定置網など多くの漁業の漁獲対象として、島根県ではほぼ周年漁獲されます。中でもシイラ漬漁業での漁獲が最も多く、島根県で漁獲されるシイラの約95%はこれによるものです。この漁法はシイラなどの回遊魚が浮遊物に集まる習性を利用したもので、漬木と呼ばれる人工的な浮遊物を作り、それに集まった魚を網で漁獲するまき網漁業の一種です。この漬漁業は主に6～8月、島根県の中・西部の石見地区を中心に操業されます。

本年6～8月漁期のシイラ漬漁業による石見地区（大田・和江・五十猛・仁摩・浜田）の水揚量は539トン、1億1,443万円と、量はほぼ平年並でしたが、金額は平年を約20%下回りました（図3）。これは例年に比べ単価の高いヒラマサの漁獲割合が少なかったことによるものと考えられます。漁獲された魚種は多い順にシイラ、ヒラマサ、カワハギ類、メダイ、カンパチ、ブリ、ヨコワなどです。

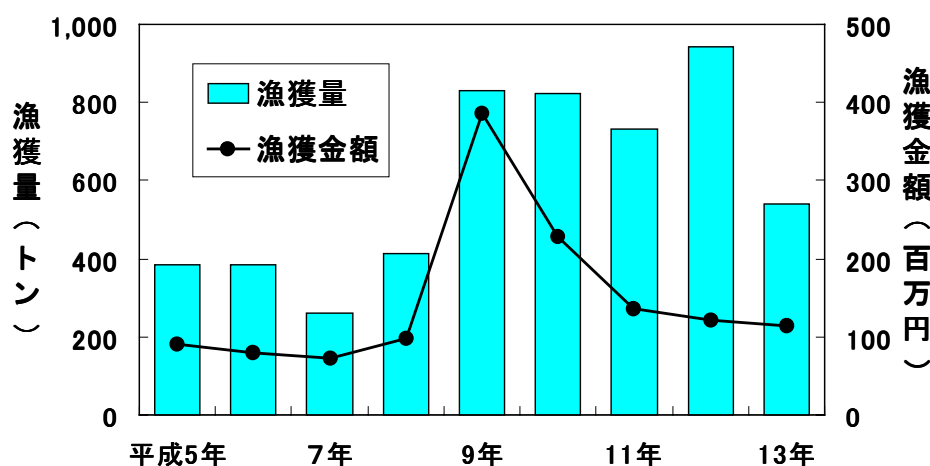


図3 シイラ漬漁業の漁獲動向

トビウオ漁

トビウオは産卵のため回遊してきた群れが漁獲の対象となりますが、島根県の沿岸には毎年5～8月（盛漁期は6月）に来遊します。本県で漁獲されるトビウオは大半がホソトビウオ（丸アゴ、丸トビ、小メ）とツクシトビウオ（角アゴ、角トビ、大メ）の2種です。定置網、刺網、船曳網、まき網などの漁業で漁獲され、鮮魚はもちろんですが、アゴ野焼き、アゴだし（焼きアゴなど）、開きなどの加工原料にもなり、本県では大変重要な魚種で平成元年には「県の魚」に指定されています。

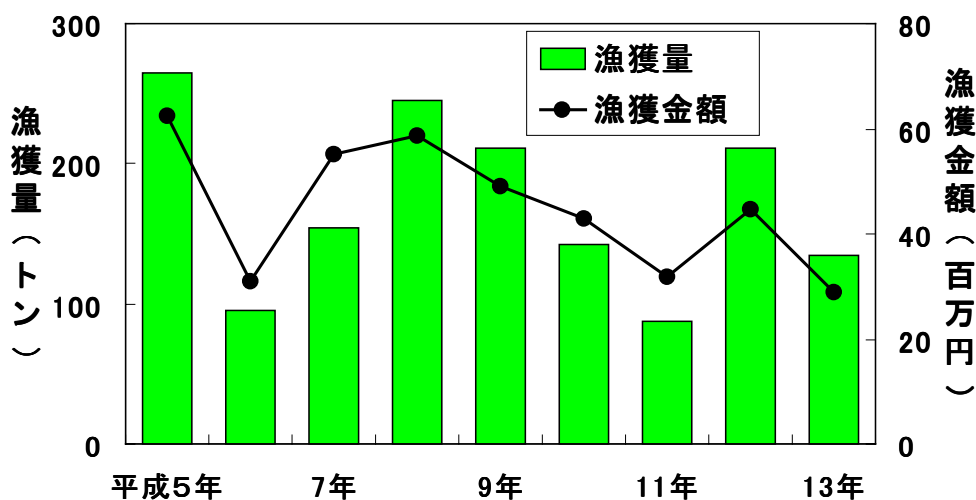


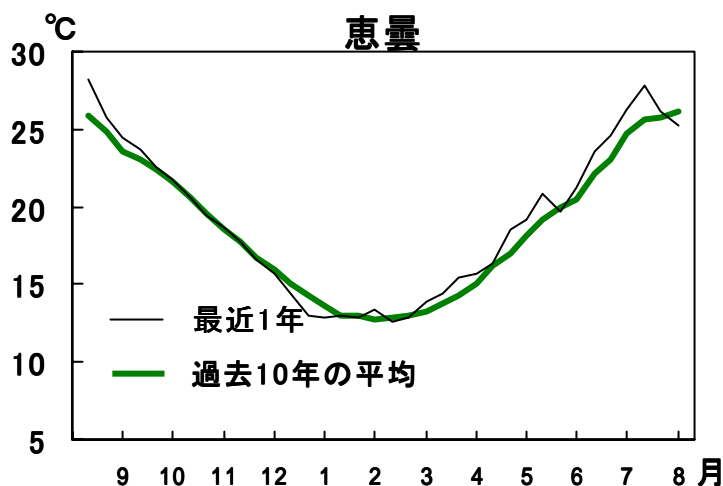
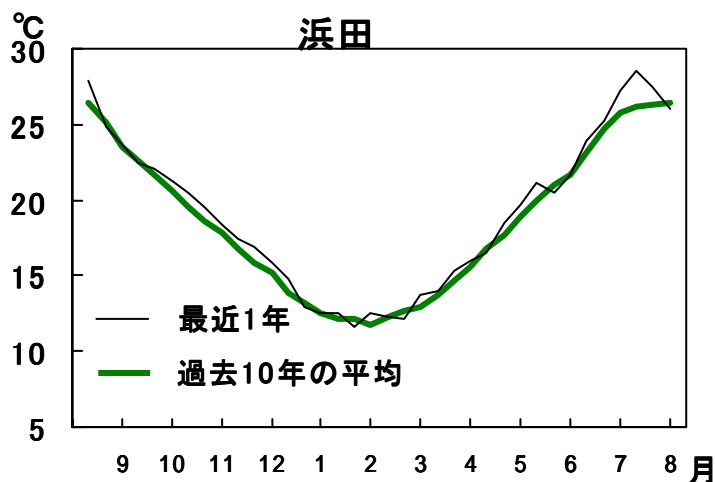
図4 トビウオ類の漁獲動向

本年5～8月漁期の石見地区（大田・和江・五十猛・仁摩・浜田）のトビウオ類の水揚量は134.8トン、2,892万円と量・金額ともに前年を大きく下回り低調に推移しました（図4）。量は不漁年だった一昨年を上回りましたが、金額は平年の65%と近年では最も低い値となっています。

《 8月の海況 》

8月	月平均	平年差	評価
浜田	27.3	+1.0	やや高め
恵曇	26.4	+0.6	平年並み

8月の月平均水温は7月に比べ浜田で1.8、恵曇では1.6上昇しました。浜田では、「やや高め」、恵曇では「平年並み」の水温経過となりました。



島根・山口・鳥取の各県水産試験場が行った海洋観測結果(9月上旬)によると、表層では沿岸から沖合いにかけての広い範囲で24~26の水温となっています。中・底層(50mおよび100m)では、隠岐諸島の北北西約60マイルおよび北北東130マイルに勢力の強い冷水域があり、両者の間に沿岸からのびた暖かな水塊が入り込んでいます。これらの冷水域と暖かな水塊の間には強い潮境が形成され、これに沿った強い流れが見られます。隠岐諸島の北北西60マイルの冷水域は8月にも観測されていますが、この時よりもやや北東方向に移動しています。また8月に見られた山口県沿岸海域の「高めの水温傾向」は一転して「低め」となっていました。山陰沿岸海域の表層水温は、山口県沿岸で「やや低め」のほかは「平年並み~やや高め」、中層~底層では冷水域とその周辺で「かなり低め」のほかは「平年並み~かなり高め」でした。

《 8月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量はマアジ・ブリ主体に645トン、水揚金額は7,901万円でした。また、1統当たりの漁獲量は61トンで前年の59%、平年の56%と、前年・平年を大きく下回りました。水揚金額は1,975万円(前年比:85%)とこちらも低調でした。

恵曇ではマアジ・ウルメイワシ主体に総漁獲量118トン、水揚金額は3,372万円でした。1統当たりの漁獲量は17トン(前年比:32%)、水揚金額は482万円(前年比54%)でした。浦郷ではマアジ・ブリ・カタクチイワシ主体に総漁獲量1,569トン、水揚金額8,556万円でした。1統当たりの漁獲量は314トン(前年比:443%)、水揚金額は1,711万円(前年比:93%)でした。隠岐海域でマアジの当歳魚が好調だったものの、その他の海域では低調な漁模様となりました。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣り船(5トン以上)によるイカ類の漁獲量は、ケンサキイカを中心に56.4トン(前年比:35%)と低調な水揚げとなりました。ケンサキイカは3段~4段の小型個体が主体でした。一方、西郷のイカ釣り船(5トン以上)では、スルメイカ・ケンサキイカを中心に30.1トン(前年比:59%)の水揚げで、こちらも低調に推移しました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は151トン、総水揚げ金額は8,296万円、1統当り漁獲量は25.1トン(前年比:79%、
 平年比:109%)、水揚げ金額は1,383万円(前年比:101%、平年比:134%)でした。漁の主体はムシ
 ガレイ(前年比:113%)・アカムツ(前年比:30%)でした。

恵曇港の総漁獲量は71トン、総水揚げ金額は5,081万円、1統当り漁獲量は18トン(前年比:140%、
 平年比:209%)、水揚げ金額は1,270万円(前年比:167%、平年比:255%)でした。漁の主体はムシ
 ガレイ(前年比:206%)・ヤナギムシガレイ(前年比:182%)・ケンサキイカ(前年比:816%)でし
 た。

【定置網漁業】

隠岐地区ではシイラ、カンパチ、ブリ、ケンサキイカ主体に、前年の60%の漁獲量となりました。県
 東部では、ブリ、カマス、マアジ、サワラ主体に前年並みの漁獲がありました。県西部ではカマス、ブ
 リ、コシナガ、マアジ、サワラ主体に前年の1.5倍の漁獲量でした。前月好調だったトビウオ類および
 マアジは大きく減少しています。県東・西部でカマスが好調となっています。ケンサキイカは前月に引
 き続き低調に推移しています。

【釣・縄】

出漁日数が前年及び前月を大幅に下回り、8月の沿岸の釣は各地区とも低調な漁模様となりました。
 特に県西部では量・金額ともに平年を50~55%も下回るほどの不漁となっています。県東部および隠
 岐では量が40%、金額は約30%平年を下回りました。多くの魚種が平年を下回りましたが、特にケン
 サキイカの減少が大きく影響したようです。漁の主体は西部がケンサキイカ・カサゴ類・アマダイ、東
 部がケンサキイカ・スルメイカ、隠岐がケンサキイカ・カサゴ類・メダイとなっています。

漁獲統計

平成13年8月1日~31日

漁業種類	水揚港	延隻数 ・統数	主要魚種	1隻(統)1航 海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	45	マアジ・ブリ	5.4ト	244ト
	恵曇	79	マアジ・ウルメイワシ	1.5ト	118ト
	浦郷	70	マアジ・ブリ・カタクチイワシ	22.4ト	1,569ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	344	ケンサキイカ	164Kg	56.4ト
	西郷	337	ケンサキイカ	89Kg	30.1ト
沖合底びき網	浜田	16	ムシガレイ・アカムツ	9.4ト	150.6ト
	恵曇	16	ムシガレイ・ヤナギムシガレイ ケンサキイカ	4.5ト	71.3ト
ばいかご	平田	11	エッチュウパイ・エビ類	297Kg	3.3ト
	大田市	22	エッチュウパイ	509Kg	11.2ト
	和江	8	エッチュウパイ	514Kg	4.1ト
	仁摩	16	エッチュウパイ	381Kg	6.1ト
定置網	浜田	92	カマス・コシナガ・マアジ	509kg	46.8ト
	恵曇	88	カマス・カタクチイワシ	243kg	21.4ト
	浦郷	34	シイラ・ケンサキイカ	264kg	9.0ト
釣・縄	浜田	323	ケンサキイカ・アマダイ・マアジ	36.5kg	11.8ト
	五十猛	149	ケンサキイカ・カサゴ類	38.9kg	5.8ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。